大阪 歯科
保険医新聞
11/15
2017年第1283号
（毎月5、15、25日発行）
大阪府歯科保険医協会
発行人　志岐　敬
大阪市浪速区幸町1-2-33
電話(06)6568-7731(代表)
http://osk-net.org/
●定価・年間10,000円　月1,000円
●1977年5月23日第三種郵便物認可

指導の改善を求める役員ら＝11月2日、大阪府庁

大阪府交渉

高圧的な指導はやめよ

協会　会員の声示し、改善迫る

高圧的な指導はやめよ――。協会は2日、指導の改善や子どもの口腔保健対策などを求めて大阪府と庁舎内で交渉した。会員の声を示して指導の改善を求めたところ、「新規指導については厳しい目で説明した方が良いとの考え方もある」と正当化するなど、府の姿勢が浮き彫りになった。

協会は会員から指導の相談を受けるなかで「取り調べのような威圧を受けた」との声が寄せられていることを紹介し、改善を求めた。府は「懇切丁寧にすることを心がけている」と回答した。

協会は「指導時間が延長するケースもあり、診療にも悪影響を及ぼしている」と追及。府は「新規指導は被指導者が今後、指導や監査を受けなくても済むように厳しい目で説明した方が良いという考え方もある」と正当化したため、「府の技官は直情的だという声が複数ある。考え直してもらいたい」と迫った。

子どもの口腔保健対策では、2016年度に実施した学校歯科治療調査を基に、口腔崩壊の児童・生徒が府内で2700人（推計）に上ることを指摘。「子どもの健康を守るために具体策を考えてほしい」と訴えた。府は「各学校で指導をお願いしている」と述べたため、協会は「学校任せにしているようにしか思えない。実態を調査してほしい」と強調した。その上で、歯みがき指導やフッ化物洗口など、各学校を支援するよう求めた。

来年4月に改悪を計画している福祉医療費助成では、「障害者・高齢者の負担増に伴って確実に受診抑制が増える。府民に寄り添って計画を見直してほしい」と求めた。府は「持続可能性を高めるための制度の再構築として理解してもらいたい」と改悪撤回を否定した。

府との交渉は毎年実施しており、今年度は審査・指導の改善、国民健康保険や口腔保健事業の充実など10分野64項目を要望。交渉には役員13人と事務局員が参加した。

第40回保険医まつり　マイドームおおさか

2550人でにぎわう

大阪府保険医協同組合は、第40回保険医まつりを10月28日・29日、マイドームおおさか（大阪市中央区）で開催した。歯科・医科各協会から会員や家族、従業員など、延べ2550人超が参加した。

まつりには、100社以上が出展。歯科・医科材料の特売コーナーや、各地のグルメを集めたコーナーなどが盛況だった。また、40周年を記念した特別抽選会が開催され、会場はたいへんな賑わいをみせた。

中央ステージでは、テレビ番組でもお馴染みの落語家・月亭八光氏の漫談やお笑い芸人の桜・稲垣早希氏のトークショーをはじめ、マジックショーやJr漫才、ものまね、歌、ビンゴゲームなどの催しで来場者を楽しませた。また、同会場にて両日で15のセミナーが開催された。

歯科特売場の様子（上）月亭八光氏の漫談（下）＝10月29日、マイドームおおさか

基軸　カジノ誘致を検証する ⑥

静岡大学教授・鳥畑与一氏に聞く

カジノを主要産業として発展してきた街・ラスベガス。10月に現地を視察した鳥畑与一氏のリポートを掲載する。

◇

ラスベガスの中心地ストリップ地区南端のマンダレイベイでミュージカル「マイケル・ジャクソン・ワン」を観て外に出ると、道路の向かい側で野外コンサートが行われていた。生の歌声が心地よい。今からでも入れるだろうかと入り口を見ると身体検査と兵にチケット確認をしていた。この2日後に乱射事件の惨劇の場となるとは想像しようもなかったが、そこから観光客で溢れる大通りをニューヨークニューヨークなどの巨大カジノホテルを眺めながら歩くとカジノで治安が乱れるというのは再考が必要だろうかと自問する自分がいた。

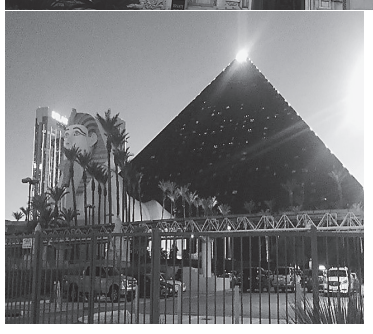
有名なエンターテイメント集団・シルクドソレイユを中心に各ホテルは様々なショーを専用シアターで連日催し、ベラッジオの噴水ショー、ミラージュの噴火ショー、サーカスサーカスの無料アトラクションは言うまでもなく、ピラミッドそのものがホテルのルクソールなどストリップ地区の各ホテルの独創的な建築物には感嘆させられた。高級レストランやショッピング街も欧米中心の観光客で溢れ、LVサンズのベネティアンやMGMのマンダレイベイの巨大かつ豪華なMICE（会議・展示場）施設にも圧倒された。ラスベガスがエンターテイメントとMICEで脱カジノの統合型リゾート化に成功した街に見えてくるのは事実であった。

しかし、各ホテルのMICE施設はがら空きの状態であった。市が運営するコンベンションセンターも同様であった。稼働率はどうなのか？市は公開しないと回答してきた。治安もバスに乗ったときチケットを点検する「車掌」が武装しているのに驚いた。大通りを銃販売や売春の広告車が走り回る一方で、ホテル以外の催し物入り口での武器チェックは厳しく警官も多かった。カジノでの置き引き等の犯罪も多発しているとのことだった。賑わいも大通りを離れると閑散としており、ダウンタウンのカジノ街の向こうは閉鎖したモーテルばかりであった。この奇妙なアンバランスさに、この街は本当に繁栄しているのだろうかと去来した。

（つづく）

番外編・ラスベガス訪問記 ㊤

虚飾に満ちた歓楽街


「南国の楽園」ホテル・マンダレイベイ（上）ピラミッド型ホテル・ルクソール（下）

歯界

秋になり、気温が下がってくると昆虫類の活動が鈍ってくる。あれだけ騒いでいた火蟻による被害ももはや過去の話題となってしまった。生物を含めた自然災害は常に想定の域を超えて襲ってくるが、日本人は忘れっぽいのか、諦めてしまっているのか、次々と新しい課題に熱中する。

台風と地震は日本が研究の最前線にいるが、昆虫被害に関しては、そもそも日本には研究者が少なく、外国から学ぶことが多いようだ。関係省庁や研究者たちは、日夜研究に余念がないが、国民の関心が離れてしまうと対策を講じるための後ろ盾を失うことになってしまう。

地球温暖化によって日本列島は亜熱帯になる地域が増えてくる。これに伴い、日本は昆虫たちのねらい目の移住先になるだろう。賢い蟻は日本人が気付かぬ間に蟻塚の中に暖房設備を建設中かもしれない。

虫刺されくらいと軽視していると痒いくらいで済まなくなりそうだ。

今日の数字

53.68%

10月22日投開票の衆議院選挙の投票率。戦後2番目に低い水準となった。